

匠の技術にふれたくて知っているようで知らないものづくりの現場を訪ねました。

# 大人の社会見学

## 円山川の風土が育てた工芸品 豊岡杞柳細工

豊岡の鞆産業を発展させた伝統工芸  
材料の栽培から仕上げまでの一貫作業  
伝統の技とめくもりが編み込まれた杞柳細工



杞柳細工を編み始めてから、染めなどの工程を経て仕上げるまで、約1週間ほどかかる。月見草、葉のイガ、玉ねぎの皮、セイタカアワダチソウなど、様々な草木で染めて個性豊かな作品をつくりあげる。



(右)平成15年に「グッドデザインひょうご人賞」を受賞した宮崎さんの手提籠(てさげかご)。



一本一本手作業で、厚みや太さを整える。

### DATA

#### ■兵庫県杞柳製品協同組合

\*杞柳製品は玄武洞ミュージアムやじばさんTAJIMAなどで購入可。玄武洞ミュージアム内の豊岡杞柳細工ミュージアムでは杞柳細工の歴史や道具などを展示。(公式サイトでも購入可: <http://www.kiryukumiai.jp/>) TEL.0796-23-3821

全国の4大生産地のひとつとして、日本一のシェアを誇る豊岡の鞆産業。豊岡が鞆の一大産地となつた起源は、奈良時代に始まり、江戸時代にかけて発展した「杞柳細工」。柳行李で知られる「コリヤナギ」で編み上げられた杞柳細工は、国指定伝統的工芸品となつている。

豊岡市の杞柳細工伝統工芸士、宮崎和子さんはこの道20年のベテラン職人。柳のたて芯によこ芯を丁寧に編み込んでいくのだが、その作業は目にもとまらぬ早業。両手で固定しながら力強く編み込んでいく技はさすがだ。細い一本の柳が見る見るうちに表情豊かな作品に変わっていく姿に

は思わず魅入ってしまう。しなやかに見える柳だが、編んでいるとすぐに爪がボロボロになつてしまうそう。柳は乾燥すると折れやすくなってしまうので、水に浸したものを使う。時々霧を吹きかけたり、柳の芯の厚みや長さをナイフで調節したりと、柳の状態を見極めながら作業を進めていく。長年の勘と経験が必要な技だ。編み方は底編、縄編、側編などそれぞれ別の技法を合わせると全部で74種類もあり、その組み合わせによつて様々な作品ができあがる。技術はもちろん、デザインセンスも重要となる。「杞柳細工は編む作業に入るまでの方が、実は大変なんです」と宮崎さん。材料である柳は仕入れているものだと思いきや、実は職人が各自畑で栽培している。最盛期には農家が柳を栽培していたが、現在ではほとんどいなくなつてしまったためだ。秋に刈りとり、束ねた状態で冬を越したら、春に数本ずつ田にさして芽が出るまで待つ。そして皮を剥いで水で洗い、乾燥させてやつと編む段階に到達する。一反ほどの畑いっぱい育っている柳を、宮崎さんは家族ぐるみで原材料に仕上げていく。一本の柳を4本ほどに割り、用途に合わせて長さや幅、厚みを手作業で整える。特に皮を剥ぐ作業が大変なのだそう。材料の栽培から仕上げまで、職人の手作業による一貫制作で作られる杞柳細工。柳一本一本、ひと編みひと編みに、職人の根気と忍耐が込められている。

一級建築士 参加無料 要申込み 定員30名  
大好評につき春・夏連続開催!  
<第4回> 4月4日(日) <第5回> 7月18日(日)  
家相・風水プランナーが語る  
時間・場所などの詳細はお電話にてお問い合わせください。

## 家相・風水セミナー

プラス思考で使い勝手とセンスが良くなる楽しいヒントがいっぱい!  
先行予約も可能です。下記まで、お気軽にお問い合わせください。

セミナー受付専用ダイヤル **0120-720-012** [www.smilecollege.jp](http://www.smilecollege.jp)  
主催:住まいるカレッジ本部事務局 後援:住まいるカレッジ近畿事務局(シンケンホーム内) 豊岡市一日市1676-17

## 竹中司法書士事務所

●不動産登記 ●商業・法人登記 ●相続 ●裁判事務



司法書士 行政書士 中田 治子  
竹中 博司 司法書士 松岡 英樹

TEL. **0796-23-4111**

FAX. 0796-23-4161

MAIL. [takenakasihousyosi@sage.ocn.ne.jp](mailto:takenakasihousyosi@sage.ocn.ne.jp)

# 但馬アーカイブ

2枚の写真から過去・現在・未来を探る

## 生野瓦

(朝来市生野町)



改修工事が進む旧生野鉱山官舎(甲住宅)。写真手前の2棟は、復原された生野瓦が使用されている。昔は手作りだったこともあり、ひとつとして同じ瓦はないのだとか。品質の安定が求められる現代において、いかに不揃いに造るかで試行錯誤したという。生野瓦独特のまだら模様がとても忠実に復原されている。古い瓦と比べても、遜色はないでさばえ。



改修工事前の旧生野鉱山官舎(甲住宅)

### 鉱山町が生み出した赤褐色の屋根瓦 失われた独特の色合いを求めて復原に挑む

開坑1200年の歴史を誇る「生野銀山」。その銀山とともに栄えてきた生野の町には、鉱山町特有の文化遺産が数多く残っている。

その中の代表的な遺産のひとつが、「生野瓦」。その特有の色合いから「赤瓦」ともいわれている。生野瓦については文献が少ないためルーツもはっきりしておらず、昭和10年頃から生産されなくなり、今ではこの瓦で葺いた建物も珍しいものとなってしまった。

平成22年度中の完成を目指して、改修工事が進んでいる旧生野鉱山官舎は、生野瓦で葺いた貴重な建物。5棟ある建物の内、3棟については、復原された生野瓦が使用されている。

瓦の復原を担当しているのは、神戸町吉富にある吉富瓦産業株式会社。代表の桐月秀樹さんは生野瓦を見て、「これなら造れる」と直感した。

「まずは瓦の規格が同じだったこと。そして何より、私たちの吉富瓦のルーツが生野瓦だ



JR生野駅西口駅舎にも復原した生野瓦を使用。右は古い生野瓦。



ったんです」と語る。

明治中期、桐月さんの先祖が生野の窯元で修行し、その技術を持ち帰って瓦製造を始めたことが吉富瓦の起源。今では銀色瓦の製造のみだが、昔は赤瓦も造られていたそうだ。

「難しかったのは、色合わせ。赤瓦と言っても、生野瓦は赤一色ではなく、またら模様なんです。おそらく鉱石の精錬の際にできた堆積上を上葉に使った影響だと思うのですが、独特の濃淡が特徴的です」と、桐月さん。

色を付ける薬を工夫するなど完成度を高め、忠実に再現した生野瓦は、専門家からの評判も上々だという。

「少し黒みがかった色合いが復原できたと思います。工業製品にはない味わいや渋みを見て欲しいですね」。

最近では民家でも復原した生野瓦で葺いて欲しいという依頼が増えており、「町づくりに貢献できれば」という想いから、住民の要望に答えている。生野散策の際は、古いものと見比べてみるのも面白い。協力：吉富瓦産業株式会社

特別天然記念物 コウノトリ



## 豊かな未来へ

地域のために、あなたと共に

### 但馬信用金庫

本店／豊岡市中央町17-8 TEL0796(23)1200

<http://www.tanshin.co.jp/>